

主イエス様のからだなる教会

2007. 5. 15 (火)
ベック兄メッセージ (メモ)

引用聖句

使徒の働き 5章1節から11節

ところが、アナニヤという人は、妻のサツピラとともにその持ち物を売り、妻も承知のうえで、その代金の一部を残しておき、ある部分を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。そこで、ペテロがこう言った。「アナニヤ。どうしてあなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、地所の代金の一部を自分のために残しておいたのか。それはもともとあなたのものであり、売ってからもあなたの自由になったのではないか。なぜこのようなことをたくらんだのか。あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」アナニヤはこのことばを聞くと、倒れて息が絶えた。そして、これを聞いたすべての人に、非常な恐れが生じた。青年たちは立って、彼を包み、運び出して葬った。三時間ほどたって、彼の妻はこの出来事を知らずにはいつて来た。ペテロは彼女にこう言った。「あなたがたは地所をこの値段で売ったのですか。私に言いなさい。」彼女は「はい。その値段です。」と言った。そこで、ペテロは彼女に言った。「どうしてあなたがたは心を合わせて、主の御霊を試みたのですか。見なさい、あなたの夫を葬った者たちが、戸口に来ていて、あなたをも運び出します。」すると彼女は、たちまちペテロの足もとに倒れ、息が絶えた。はいつて来た青年たちは、彼女が死んだのを見て、運び出し、夫のそばに葬った。そして、教会全体と、このことを聞いたすべての人たちとに、非常な恐れが生じた。

最近、いろいろな人に「お元気ですか？」と聞かれます。そんなに難しいこと聞かないで…。私にもわからないから…。(笑) ドイツの兄弟姉妹が来られた次の日からずっと一緒に行動しました。その時白血球は1700でした。そしてドイツの兄弟姉妹と一緒に移動したり、いろいろなことをしたので、今度きっと白血球が下がってしまったのではないかと思ったのですが、先週の木曜日の検査によると、同じく1700でした。T兄弟(医者)は、「今から絶対に下がらないから、安心して」と言うのです。2週間前に1700だったのですが、私の想像では、一度落ちて少なくなり、次にそれから白血球を自分で造れるようになったのではないかと思います。(健康体のみなさんは、少なくとも3000から9000の白血球を持っているそうです。)けれども、もう少し注意しないと駄目だそうです。(注意しないとドイツまで行けなくなるので、そうならないように気をつけましょう。)

兄弟姉妹たちが祈ってくださっていることは、本当に心から感謝します。

この間、S兄弟から頼まれました。「次回の『主は生きておられる』という雑誌のために何かを書いてください」と。それで今日のメッセージを渡したのです。ですから、いつか読むようになると思いますので、今日の話はべつに聞かなくても、眠っても結構です。(笑)

テーマは、『主イエス様のからだなる教会』です。もちろん、教会とは、一つの建物でもないし、一つの団体、教派でもありません。数えられないほど多くの人たちは、「教会」という言葉を使います。けれど、「まことの教会」とはどういうことを言い表わしているのでしょうか。こんにちのいわゆる「教会」は、パウロが受け取った啓示を失っているのではないのでしょうか。こんにちの教会は、聖書にかなった教会でしょうか。

主イエス様は、「リバイバル」についての祈りにどうして今まで応えられなかったのかと多くの人々は考えます。まず決まった必要条件を満たさなければならないのです。あらゆる時代において、「主のみこころを実現したものだけ」に主の祝福があった、ということが聖書にはっきり記されています。このような質問について、真剣に考えている兄弟姉妹はたくさんいます。

主のご計画について聖書は何と言っているのでしょうか。イエス様のからだなる教会について一番多く語っている手紙はエペソ書です。よく知られている箇所なのです。

エペソ人への手紙 1章9節から11節

みこころの奥義を私たちに知らせてくださいました。それは、神が御子においてあらかじめお立てになったご計画によることであって、時がついに満ちて、この時のためのみこころが実行に移され、天にあるものも地にあるものも、いっさいのものが、キリストにあって一つに集められることなのです。このキリストにあって、私たちは彼にあって御国を受け継ぐ者ともなったのです。私たちは、みこころによりご計画のままをみな実現される方の目的に従って、このようにあらかじめ定められていたのです。

「キリストにあって一つに集められることなのです」と。

聖書全体を見てもはっきり言えることは、主なる神のご計画は、「御子であられる主イエス様」、また「イエス様のからだなる教会」です。もし私たちがこの事実を啓示によって、主のみこころを心の目で見ると、その結果は、私たちの生活の内に満たしとなり、そして私たちの奉仕は永久的な実を結ぶようになります。私たちが主のみこころを悟ることができるように祈りましょう。

今の時代におけるイエス様のおもな目的は、「イエス様のからだなる教会」です。

三つの点について一緒に考えてみたいと思います。

第一番目、主なる神の三位一体の永遠のご計画について。

第二番目、主なる神の三位一体の愛の働きについて。

第三番目、救いの対象である教会について。

*第一番目、主なる神の三位一体の永遠のご計画について。

まず、主の永遠のご計画について、考えたいと思います。聖書によって、主のみこころをはっきりと悟ることができるのは素晴らしい祝福ではないのでしょうか。この主の御旨は「永遠のご計画であること」がはっきりと書かれています。

エペソ人への手紙 1章4節

すなわち、神は私たちが世界の基の置かれる前からキリストのうちに選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。

「世界の基の置かれる前」、「永遠の昔」からです。それは人間にとり、理解できない想像することもできない事実なのです。主のご計画とは永遠なるものです。

そして、パウロが殉教の死を遂げる前に書いた手紙、
テモテへの手紙・第二 1章9節から10節

神は私たちを救い、また、聖なる招きをもって召していただきましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自身の計画と恵みとによるのです。この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられたものであって、それが今、私たちの救い主キリスト・イエスの現われによって明らかにされたのです。キリストは死を滅ぼし、福音によって、いのちと不滅を明らかに示されました。

「永遠の昔」です。

テトスへの手紙 1章2節

それは、偽ることのない神が、永遠の昔から約束して下さった永遠のいのちの望みに基づくことです。

主なる神のご目的は、個人個人の信者よりも、「イエス様のからだなる教会」です。過去の時代と未来の時代全てが、今、私たちの生きている時代にかかっています。この特別な時代は、五旬節から教会の携挙、すなわち空中再臨までにかかるのです。次の聖句を読むと、この時代は特別な時期であることがわかります。

エペソ人への手紙 3章5節

この奥義は、今は、御霊によって、キリストの聖なる使徒たちと預言者たちに啓示されていますが、前の時代には、今と同じようには人々に知らされていませんでした。

9節

また、万物を創造された神の中に世々隠されていた奥義を実行に移す務めが何であるかを明らかにするためにほかなりません。

コロサイ人への手紙 1章26節から27節

これは、多くの世代にわたって隠されていて、いま神の聖徒たちに現わされた奥義なのです。神は聖徒たちに、この奥義が異邦人の間にあってどのように栄光に富んだものであるかを、知らせたいと思われたのです。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。

過去の信者たちはみな、この時代のために待ちました。永遠から永遠にわたる主のご計画は、「イエス様のからだなる教会」です。そして、私たちはこの一番大切な時代に生きて

います。この永遠からのご計画を実現するために、私たちは主の同労者として召された者です。

*第二番目、主なる神の三位一体の愛の働きについて。

ダビデは詩篇に次のように書いたのです。よく知られているみことばです。

詩篇 33篇9節

まことに、主が仰せられると、そのようになり、主が命じられると、それは堅く立つ。

結局、主がひとこと発せられると、そのとおりになります。「光よ、あれ」と言われて光ができました。主なる神が天地を創造なさったとき、それはご自分の命令の結果でした。材料は必要なかったのです。けれど、教会の場合はそうではなく、ここに主の愛の働きがあります。主なる神は、アダムを一人ぼっちではなく、彼のために助け手をお造りになりました。これは天国の象徴でした。天国のものを見せるために、主はいつもこのようなものを通して語っておられます。

たとえば、もう一度エペソ書を読んでみましょう。

エペソ人への手紙 5章30節から32節

私たちはキリストのからだの部分だからです。「それゆえ、人はその父と母を離れ、妻と結ばれ、ふたりは一心同体となる。」この奥義は偉大です。私は、キリストと教会とをさして言っているのです。

同じように、旧約聖書に出てくるイサクは、十字架につけられ死人からよみがえられたイエス様の象徴です。その出来事後、アブラハムはただ一つの願いを持っていました。すなわち息子であるイサクのために、いいなずけを探したのです。召使いは、いいなずけを見つけるために他の国へ出かけました。こんにち、この召使いの務めを持っているのは、いうまでもなく神の霊であり、「聖霊」です。「聖霊」のご目的は、イエス様のいいなずけを探すことです。主のご計画は、「主イエス様のいいなずけであるからだなる教会」です。創世記からヨハネの黙示録まで、このことがはっきりと書かれています。

たとえば、マタイによる福音書の中でイエス様は次のように言われました。

マタイの福音書 13章45節から46節

また、天の御国は、良い真珠を捜している商人のようなものです。すばらしい値うちの真珠の一つ見つけた者は、行って持ち物を全部売り払ってそれを買ってしまいます。

この商人は専門家として専門の知識を持っていました。商人は良い真珠を探しに出かけました。高価な真珠一個を見出すと、行って持ち物をみんな売り払い、そしてこれを買うのである、とイエス様は言われました。この商人はイエス様の象徴です。高価な真珠、すなわち教会を見出すために、イエス様は何という大きな富をお捨てになったことでしょう。

主なる神のおもな関心事とは、「イエス様のからだなる教会」です。主なる神の永遠からのみこころは、「イエス様のいいなずけである教会」です。

イエス様は十字架への道、すなわちエルサレムへ上られたとき弟子たちに、「あなたがたは、わたしを誰と言うか」と尋ねられたのです。ペテロは上からの啓示によって「あなたこそ生ける神の子キリストです」と告白しました。そして、イエス様はペテロに「あなたはさいわいです」と答えられたのです。なぜイエス様はこのペテロの答えを喜ばれたのでしょうか。それは、「教会の土台」であるからです。

エペソ人への手紙 5章25節

キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように…

したがって、人間の罪の問題を解決するためではなく、キリストが教会を愛し、この愛の現われとしてイエス様はご自身を犠牲としてくださったという事実です。主イエス様は、教会を見出すためにご自分のいのちをお捧げになりました。いつでも主イエス様のみこころは「からだなる教会」です。

*第三番目、救いの対象である教会について。

教会の買取り値段、仕入れ値は、「十字架」でした。もちろん、個人個人の信者は救いを自分のものとしなければなりません。イエス様のご計画、主のみこころと、聖霊のみ旨は、「教会全体」です。ご存知の通りエペソ書のテーマは、「イエス様のからだなる教会」です。この手紙に、次のことばが書かれています。

エペソ人への手紙 1章7節

私たちは、この御子のうちにあつて、御子の血による贖い、すなわち罪の赦しを受けているのです。これは神の豊かな恵みによることです。

いつか受けるかもしれない、ではなく、現在持っているのです。

11節

私たちは彼にあつて御国を受け継ぐ者ともなったのです。私たちは、みこころによりご計画のままをみな実現される方の目的に従つて、このようにあらかじめ定められていたのです。

14節

聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証であります。これは神の民の贖いのためであり、神の栄光がほめたたえられるためです。

この箇所を読むとわかりますが、いつも複数形が使われています。

2章16節

また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました。

私たちは、「イエス様が私たちを愛してくださり、その証しとしてご自身を捧げられたのだ」と言えるなら、幸せです。けれど、そう言うと、私たちは、主もまた「救いのみわざ」を通してご自身も受けられたことを考えず、自分のもらったことだけを考えている可能性があります。

主はご自分のために教会を買い取られました。パウロはミレトで、エペソの責任を持っている兄弟たちを呼んで、次のように語られたのです。

使徒の働き 20章28節

「あなたがたは自分自身と群れの全体とに気を配りなさい。聖霊は、神がご自身の血をもって買い取られた神の教会を牧させるために、あなたがたを群れの監督にお立てになったのです。」

「キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられた」と。救いによって主なる神の受け取られたものは、私たちの受け取ったものよりも大切です。私たちの祝福が大切というよりも、「主ご自身の喜びと満足」が大切です。そして、主なる神の満足とは、個人個人の信者よりも、「イエス様のからだなる教会」です。

エペソ人への手紙 3章21節

教会により、またキリスト・イエスにより、栄光が、世々にわたって、とこしえまでありますように。アーメン。

とあります。

私たちの望みについて、聖書は何と語っているのでしょうか。

ヨハネの黙示録 19章6節

また、私は大群衆の声、大水の音、激しい雷鳴のようなものが、こう言うのを聞いた。「ハレルヤ。万物の支配者である、われらの神である主は王となられた。私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。小羊の婚姻の時に来て、花嫁はその用意ができたのだから。花嫁は、光り輝く、きよい麻布の衣を着ることを許された。その麻布とは、聖徒たちの正しい行ないである。」御使いは私に「小羊の婚宴に招かれた者は幸いだ、と書きなさい。」と言い、また、「これは神の真実のことばです。」と言った。

この「花嫁」とは、「主のからだなる教会」です。

神のみことばである聖書は多くのことを語っています。たとえば、回心の必要性、または聖化の大切さ、あるいは成熟の厳しさについてです。なぜなら、実を結ばない人生があり得ることであり、備えられている冠を失うこともあるからです。

もし「聖霊」が、私たちの毎日の生活の中で考え、感じ、志すこと、支配することができれば、本当に幸いです。そうやって初めて、私たちは主イエス様とともに御座にあずかり、支配する者となることができますのです。また主のみこころは改心、聖化、成熟ばかりでなく、「イエス様のからだなる教会」です。

このイエス様の「みこころにかなった教会」について聖書は語っています。素晴らしい約束です。このことを考えると楽になります。自分でしなくてもよいのです。

マタイの福音書 16章18節

「ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。」

ここで述べている「教会」とは、単数形です。

マタイの福音書 18章17節

「それでもなお、言うことを聞き入れようとしないなら、教会に告げなさい。教会の言うことさえも聞こうとしないなら、彼を異邦人や取税人のように扱いなさい。」

ここでも「教会」という言葉が出てきますが、これは単数形ではなく複数形になります。「教会」と言うとき、本来の意味において第一には、「主イエス様にある信者の集まり」であり、時間とか場所を超越して世界的なものです。二番目の言葉の意味は、時と場所に結びついている「地域教会」です。はじめの箇所は、目に見えない教会であり、二番目には目に見える教会です。一方は組織されていないものであり、他方は主イエス様に属する有機体であり、地域集会です。

ですから、聖書による教会が分かれる訳は、世界中の兄弟姉妹が一箇所に集まることはできないので、各地方に集会を建て、集まるのです。この意味においてのみ、教会が方々に分かれて存在することが許されるのです。聖書に出てくるエルサレム教会、ローマ教会、コリント教会などはその土地の名前の教会です。聖書で「教会」という言葉が出てくるとき、それは「主イエス様に召された者の集まり」であり、ともに祈りをし、ともに生活する集まりです。それは決して一つの教派、また団体の集まりではありません。それぞれの地域集会はその実情においてまったく独立したものです。けれど他の集会が助けを必要としているときには助けますし、また他の集会で嬉しいことがあるときにはともに喜びます。この意味において互いに助け合っています。

主のみこころは、「イエス様のからだなる教会」です。主ご自身がこの教会について私たちの心の目を開かれますように。主の考えておられる教会が何であるかとわかったら、信仰の成長も早くなるに違いありません。

イエス様は、私をドイツでいろいろな教会の交わりのグループに導かれました。日本に来る以前、イギリスのあるグループを知るようになりました。その中心となる兄弟たちの中の一人は、アウスティーン・スパルクスという兄弟です。彼はイギリスで毎年行なわれている、いわゆる「奇跡大会」の一人のスピーカーであり、メッセンジャーでした。この「奇跡大会」は日本でも行なわれていますが、この奇跡大会のテーマはいつも同じテーマです。英語で言いますと、「All Born in Christ」、すなわち「私たちはイエス様にあつてみな一つです」。

一週間、兄弟たちと一緒に過ごすことはやはり楽しいです。けれどこのアウスティーン・スパルクス兄弟が、あるときから非常に悩むようになり、悲しそうな様子をしていました。一週間他の兄弟たちと一つになって共に交わったことは確かに幸いなことであり、楽しかったのですが、その後、ある教会から5、6人離れてしまい、別の教会に行くようになったら、牧師同士はねたんだり、攻撃したりするのです。したがって、主にあってみな一つであるとは、多くの場合は夢の世界です。

アウスティーン・スパルクス兄弟は、その大会に行くことをやめて、古いもう使われていない小学校を使うようになりました。私は日本に来る以前に、その所で、3ヶ月間過ごしました。その後日曜日ごとに1000人以上の兄弟姉妹が集まりましたし、あの一つの集会から36人の宣教師たちは全世界に出かけたのです。私が日本に来る途中、このスパルクス兄弟に紹介されたマニラ、シンガポール、また香港と中国の集会に集えたことは、これこそ私にとって「実際教育」のようなものでした。

その集会は生き活きとしていました。いわゆる牧師制度なし、会員制度また献金制度なしの集会でした。日本でも主はこのように働くことができになるのではないかと思うようになり、祈り続けました。結果として、当時所属していた団体から離れるようになりましたが、主は恵んでくださって、主の口となり、主の足となる兄弟姉妹を沢山与えられたことは本当に恵みそのものです。

このスパルクス兄弟はもちろん召されましたが、この20世紀で一番用いられた兄弟だったに違いありません。中国で1000以上の教会を建てたウォッチマン・ニーは問題が与えられたとき、いつもこのスパルクス兄弟のところに行って相談したのです。インドで500以上の教会を建てたバクチーンという兄弟も問題があったとき、やはりスパルクス兄弟に相談したのです。

ですから、あの一人の兄弟がそれほどまでに用いられたということは、言葉で言い表わせない神様のお働きそのものです。

主の言われている「教会」とはいったい何を意味しているのでしょうか。主のみこころは、救われた罪人の群れよりも、「イエス様の満たしを表わす統一」です。

エペソ人への手紙 1章23節

教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

主のみこころは、多数の生き活きとした意志ではなく、「主にある聖なる宮」また「霊の神の住まい」です。主のみこころは、聖徒たちの群れよりも、「息子であられるイエス様のためのいいなづけ」を求めておられるのです。

この「イエス様の満たしを表わす統一」、この「霊なる神の住まい」、「イエス様のいいなづけ」とは、「主のみこころにかなう教会」のことです。ぶどうの木の枝、また主にある聖なる宮の石、ご自分のからだの肢体とは、「教会」です。

よりよく知るために、2、3箇所読んでみましょう。素晴らしい大切な箇所です。

ヨハネの福音書 15章1節から5節

「わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫です。わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことによって、もうきよいのです。わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。…」

イエス様は、「わたしは父から離れたら何もできない」とお語りなされたのです。

ペテロの手紙・第一 2章1節から5節

ですから、あなたがたは、すべての悪意、すべてのごまかし、いろいろな偽善やねたみ、すべての悪口を捨てて、生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。あなたがたはすでに、主がいつくしみ深い方であることを味わっているのです。主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが、神の目には、選ばれた、尊い、生ける石です。あなたがたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。そして、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい。

ヨハネの福音書 10章7節から11節

そこで、イエスはまた言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしは羊の門です。わたしの前に来た者はみな、盗人で強盗です。羊は彼らの言うことを聞かなかったのです。わたしは門です。だれでも、わたしを通ってはいるなら、救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つけます。盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。

ヨハネの黙示録 21章2節から3節

私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、天から下って来るのを見た。そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、…」

パウロは、「教会の大切さ」について語っています。

コリント人への手紙・第一 12章12節

ですから、ちょうど、からだの一つでも、それに多くの部分があり、からだの部分はたとい多くあっても、その全部が一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。

27節

あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。

「聖霊の宮となった人々」「イエス様のいのちにあずかるようになった人々」は、「教会」です。

教会というギリシャの言葉は「エクレシア」、すなわち、呼び出された、引き抜かれた者を意味します。これは群集から呼び出された有機体です。エジプトから呼び出されたイスラエルの民と同じように、教会は悪魔の奴隷下から解放されたものです。主の御名を呼び求める者は救われ、そして教会と呼ばれている者です。

エペソ人への手紙 2章6節

キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。

イエス様とともによみがえらされた人々、ともに天に座せられた者たちが、「教会」です。

最後に、教会の統一について考えたいと思います。

- 一つは、生物学的な統一であり、
- 二番目に、有機的な統一です。

まず、生物学的な統一とは何でしょう。

例えば、あらゆる動物は動物の生命を持っています。動物の中にいろいろな種類と種属があるのですが、一つのこと、すなわち動物の生命をみな持っています。人間もみな同じ種類の機能の持ち主ですから、一つの統一です。

動物の間、また生まれながらの人間の間には統一があるばかりではなく、新しく生まれ変わった人々の間もあります。

エペソ人への手紙 4章4節から6節

からだは一つ、御霊は一つです。あなたがたが召されたとき、召しのもたらした望みが一つであったのと同じです。主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つです。すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのもののおられる、すべてのものの父なる神は一つです。

あらゆる時代の信者たちみな、主イエス様にあって神のいのちすなわち永遠のいのちを持っています。イエス様が聖霊によって信者たちの内に住んでおられることはこの統一の土台です。

イエス様の祈りの書かれているヨハネ伝17章を読むと、次のように記されています。
ヨハネの福音書 17章22節から23節

「またわたしは、あなたがわたしに下さった栄光を、彼らに与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つであるためです。わたしは彼らにおり、あなたはわたしにおられます。それは、彼らが全うされて一つとなるためです。それは、

あなたがわたしを遣わされたことと、あなたがわたしを愛されたように彼らをも愛されたこととを、この世が知るためです。」

信じる者はみな、恵みによって信仰によって救われました。そして信じる者がみな栄光を与えられるのです。

ローマ人への手紙 8章30節

神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認められた人々にはさらに栄光をお与えになりました。

コリント人への手紙・第一 15章41節

太陽の栄光もあり、月の栄光もあり、星の栄光もあります。個々の星によって栄光が違います。

しかし、栄光を与えられる信者の間には区別があるのです。教会の生物学的な統一ばかりではなく、有機的な統一があるのです。

コリント人への手紙・第一 12章12節

ですから、ちょうど、からだの一つでも、それに多くの部分があり、からだの部分はたとい多くあっても、その全部が一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。

この「キリスト」という言葉は、イエス様ご自身ばかりでなく、体と頭との統一、すなわち、主イエス様と信者たちみなのことを意味しているのです。

前に読みましたエペソ書をもう一度読みます。

エペソ人への手紙 1章23節

教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

これは有機的な統一です。イエス様は、頭（かしら）であり、イエス様と同じいのちを持っている兄弟姉妹みながこのからだの肢体です。生まれ変わった人々は主イエス様との有機的な統一を持っています。私たちの体の血はあらゆる肢体の内に流れています。ですから、私たちは自分の両手は体に属していないということはできません。なぜなら、肢体全部が、同じ生命の血によってお互いに結びついているからです。人間の体は血によってばかりではなく、神経によっても統一があるのです。神経系統は肢体全部が監督します。この神経系統の中心は結局、頭です。したがって足の痛み、また手の痛みはすぐに頭の先に伝わり、苦痛を覚えるのです。この神経系統によって肢体全部に統一があるのです。体中の血がちょっとだけ止まると、からだ全体がそれをすぐ感じるでしょう。一人の信者の信仰生活が制限されたら、教会全部がそれを感じるでしょう。例え二人の信者だけの間であっても統一を持っていなかったら、教会全部が前進しません。旧約聖書のアカンの罪によって、イスラエルの民全部が前進することができなかったのです。

からだの肢体の一つだけでも病気になったら、からだ全部が病気です。「教会」すなわち、信じる者がみな一つになってはじめて、主イエス様のいのちが絶え間なく無尽蔵に流れるようになります。そこで、はじめて「教会はイエス様の満たし」を表わすことができるのです。初代教会の場合はそうだったのです。

悪魔は、あらゆる統一を嫌います。ですから悪魔は、あらゆる時代においてこの教会の統一を破壊しようと努力しました。この悪魔の攻撃によって、初代教会のアナニヤとサツピラは、悪魔の道具となって多くの罪を犯したのです。救われた一人一人は、生きておられる主の宮であり聖霊の住まいなのです。

もう一箇所、最後に読みましょう。

コリント人への手紙・第一 3章16節から17節

あなたがたは神の神殿であり、神の御霊があなたがたに宿っておられることを知らないのですか。もし、だれかが神の神殿をこわすなら、神がその人を滅ぼされます。神の神殿は聖なるものだからです。あなたがたがその神殿です。

「イエス様のからだなる教会」は、主の目指しておられる目的またみこころです。主の宮を破壊する者に対する裁きは厳しいものです。「主はその人を滅ぼす」とあります。悪魔は、アナニヤとサツピラを通して、主の宮、すなわち教会の統一を破壊しましたから、主から恐ろしく裁かれたのです。

主は、ご自分の宮を破壊する人を滅ぼされます。私たちのからだの肢体は、血によって有機的な統一を持っています。同じように私たちは、聖霊の働きによって、主のいのちによって、主イエス様との有機的な統一を持っています。また、からだの肢体は血によってばかりでなく、神経によっても統一されています。

イエス様のからだの神経系統は、聖霊です。イエス様を受け入れた人々はみな聖霊の宮です。そして聖霊の使命は、信者たちに主のみこころを知らせることです。そうなってはじめて、主のからだの実際生活において統一がもたらされます。

信じる者が一つになることによって、リバイバルを経験します。一つの隠されている罪があれば、教会はイエス様を表わすことができません。私たちの中に一人だけでも聖霊によってではなく、自分の考えによって生活する人がいるなら、聖霊を悲しませることになります。

御霊が私たちの心の目を開いて、「教会の意味」について、「教会の素晴らしさ」について、また「教会の統一」について知らせることができれば、本当に幸いと思います。

了